

人身被害が起こる場面とは…

クマによる事故の多くは「不意の遭遇」や「誘引物」が引き金となっています。

不意の遭遇

山菜採りなど視界の悪い藪の中など人間とクマが互いに気づかず数メートルの距離まで接近した際に起こります。驚いたクマがパニックに陥り、身を守るための反射行動として、鋭い爪で顔面や頭部を攻撃します。攻撃した後は、クマがそのまま逃げ去る傾向が報告されています。

誘引物

収穫時期の果樹、放置された果実や生ゴミを求めて人里に降りてきたクマが偶然通りかかった人と遭遇した時に起こります。クマが食事に集中しているところに人が鉢合わせすると、クマは「獲物を横取りされる」と勘違いし、防衛のために人間を襲うと言われています。

被害を防ぐ 3 か条

1 動物のエサとなるものを放置しない

家庭菜園などの食害でも、人身被害を招くリスクがあります。畑の被害を楽観せずに作物はしっかり柵で守り、生ゴミや放置された果樹も処分しましょう。



2 動物が好む環境を作らない

草やぶをキレイに刈ると、動物が人里にやってきていきなり遭遇するリスクを減らせます。動物が潜んでいるかもしれないので、山でも草やぶには急に近づかないようにしましょう。



3 私たちの行動

動物が出やすい場所・時間帯の行動を避けることが最高の予防策です。動物が活動しやすい早朝と夕方の時間帯は、できるだけ避けて行動しましょう。山菜採りや登山の計画も、クマやイノシシの出没情報を調べながら考えましょう。動物がいる場所に行く時は自分がいることを動物に「アピール」しましょう。

クマスプレーを持っていく



グループでお喋りしながら行動する

音の鳴るもの（鈴やラジオ）を持つ

万が一、遭遇してしまったら

クマを刺激しない

攻撃したり、大声で威嚇したり、急な動きをするとクマが驚いて反撃しようとするため、絶対にクマを刺激しないようにしましょう。



ゆっくりその場から離れる

クマは逃げるモノを追う習性があります。クマに背を向けないようにして、ゆっくりと距離を空けましょう。十分に距離が空くと、クマの方から去っていくケースが多いです。



最終手段 防御姿勢

急所（顔・頸部・腹部）を守るために「防御姿勢」をとりましょう。攻撃が顔や首の正面・背骨に当たらないように腕で守り、可能であれば地面に伏せてください。



目撃情報は、役場または警察署へ

問 湯沢町役場環境農林課 ☎ 025 - 788 - 0291
南魚沼警察署 ☎ 025 - 770 - 0110

クマ出没情報については、こちらのウェブサイトをご活用ください▶

さる・くま
情報メール

Information email



クマ出没マップ

Bear sighting map



町ウェブサイト

Yuzawa town website

